



NPO法人 大谷石研究会

大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝えする大谷石研究会の広報誌



本会は旧大谷公会堂の中です



パネルディスカッションの様子

午前の見学先の「大谷の名所」は「大谷資料館」のほか「屏風岩」、「大久保石材店」、「渡辺家住宅」の計4カ所、受付の市営大谷駐車場では大谷資料館の入館半額券が配布されました。そのほかの場所には、観光ガイド役としてそれぞれ大谷石研究会の会員を配置しました。いずれも大谷の景観を代表する建造物であり、また普段は見ることのできない所まで案内したこともあり、皆さんに好評だったようです。

今回のシンポジウムのテーマは、「建築家 更田時蔵が遺したもの…『旧大谷公会堂』を語る」です。

今までの旧公会堂は「国の登録有形文化財」という程度の知識でしたが、このたび岡田義治博士（本研究会理事）の研究により旧公会堂の「文化的価値」が明らかになり、それを中心にパネルディスカッションが構成されました。

実行委員長の挨拶のあと、司会・コーディネーター役の海老原忠夫さん（本研究会理事）から、テーマについての主旨説明のあと、パネリストの中山繁信さん（建築家）、岡田義治さん、小野口順久さん（本研究会理事長）が紹介されました。

中山さんはフランク・ロイド・ラ

建築家 更田時蔵が遺したもの…『旧大谷公会堂』を語る

「未来に響け『石の声』シンポジウムVOL4」開催

NPO法人 大谷石研究会理事
足利工業大学教授
和田昇三

11月3日、快晴の中、シンポジウムに先立ち午前10時から今年4月に再開された大谷資料館など「大谷の名所」の見学会が46名の参加のもと実施されました。また、午後1時30分から旧大谷公会堂でシンポジウム「未来に響け『石の声』VOL4」が開催されました。今回はあらためてその文化的価値について検証し、保存活用するに値するかどうか、50名の来場者とパネリストが熱心に語り合いました。

イトの帝国ホテルを紹介し「大谷石建築の魅力」について話されました。また、同ホテルの建築に携わった大谷の石工たちが、地元に戻って建てた蔵（倉庫）が紹介されました。大久保石材店の裏手にあり、ライトのデザインに近い装飾が施されており、まさに「大谷石建築の魅力」そのものでした。

岡田さんは、更田時蔵を「先進性のある建築設計を通して地域に建築のデザインや技術等を啓発した」と紹介されました。また旧大谷公会堂について「わが国の近代建築で唯一の公会堂の用途に供する『石造建築』であること」と述べ、「旧大谷公会堂の文化的価値」を高く評価されました。旧青木家那須別邸が岡田さんの研究により重要文化財となったことを考えますと、このことは大変重要な指摘であると思いました。

小野口さんは、「旧大谷公会堂を活かした街づくり」について、「音楽会（ジャズ、レコード鑑賞）」「まちライブラリー（図書館）」「レンタサイクル」「農産物直売」などに活用し、大谷地域の活性化に繋がりたいと話されました。また、旧大谷石建造物に愛着を持つ人が少なくなってきたこと、石工の技術の継承が図られていないなど、大谷と大谷石の抱える問題点に対して懸念を示されました。

最後に来場者との意見交換の中で、石造建築が解体されていくことに対し、旧公会堂と同様に大谷石研究会が保存活用に向けて活動してほしいのご指摘を頂きました。またコーディネーターの海老原さんは、栃木県の建築課在職中大谷石に関わってきた経験を司会進行の中で随時話され、そのため分かり易く会場全体が一体となり、シンポジウムは盛況のうちに終わりました。



大切にしますパートナーシップ



印刷技術がいかに進歩しようとも
技術表現の根幹は「心」であると考えます

印刷のご用命は

株式会社 **新光社印刷**

〒321-0811 宇都宮市大通り2-4-1番地
TEL 028-633-4718(代) FAX 028-637-3981

システム開発ならお任せ下さい



株式会社 **アイシー・イス**
価値あるシステムの創造

〒320-0055 宇都宮市下戸祭1-9-16
TEL 028(643)3377 FAX 028(643)3378
<http://www.icsjpn.co.jp>